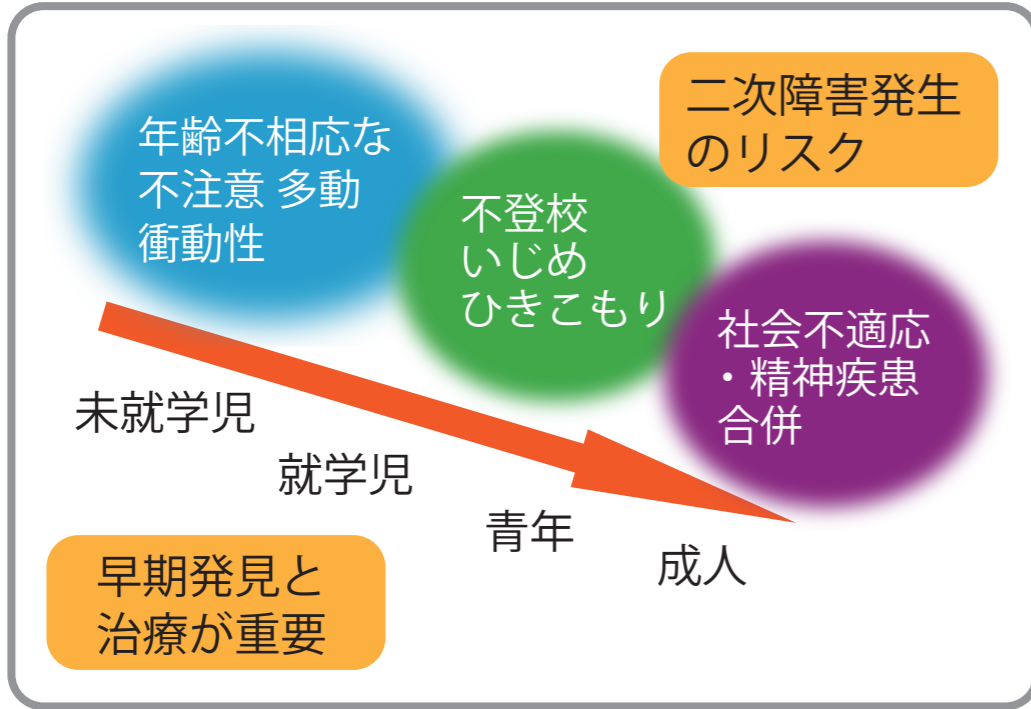


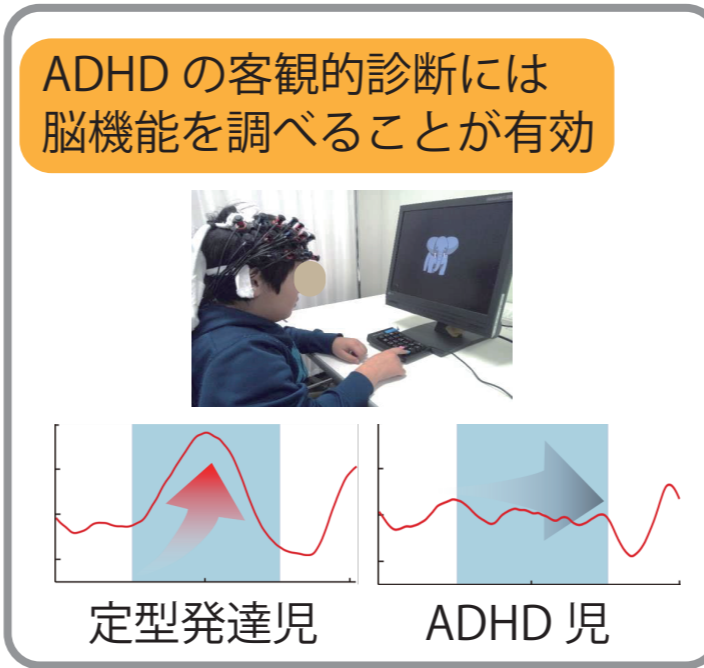
機能的近赤外分光分析診断法による注意欠如・多動症児支援システムの実装

短期目標：家庭、学校、医療機関をつなぐシームレスな支援システムの実装
長期目標：早期発見・治療による二次障害防止と病態理解による、社会参画の促進

注意欠如・多動症は深刻な社会問題



技術成果：行動観察による主観的診断→客観的診断法の実現



【概要】

注意欠如・多動症（ADHD）は、不注意、多動、衝動性を症状とする発達障害で、5%程度の児童に発症する。学業不振や社会的不適応、精神疾患の発症という二次障害の危険から、重大な社会問題となっている。ADHDの診断は主観的な行動観察が中心であったが、我々はADHD児の脳機能低下と薬効による回復を客観的にモニターする機能的近赤外分光分析診断法を開発した。本活動では、この診断法に基づく一連の検査システムを実装し、患者関係者から医療機関へのアクセス→機能的近赤外分光分析診断法による検査依頼→患者関係者への結果のフィードバックというフローをシームレスに機能させる。

【主たる共同組織（活動地域）】

栃木県、埼玉県の一次・二次医療機関

機能的近赤外分光分析診断法による注意欠如・多動症児支援システム



図1 機能的近赤外分光分析診断法による注意欠如・多動症児支援システムの実装（説明図）